

令和 5 年 6 月 7 日現在

機関番号：26401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K17481

研究課題名（和文）妊娠期ケアにおける臨床判断に関する現任教育プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of educational programs for clinical judgment in prenatal care

研究代表者

西内 舞里（NISHIUCHI, MARI）

高知県立大学・看護学部・助教

研究者番号：10783649

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、助産師が個々に持つ専門的知識や技術の積み重ねである臨床判断を明らかにすることおよび、臨床判断に関する現任教育プログラムを開発することである。妊娠期ケアにおいて助産師は、母体と胎児の健康状態に必要な情報を収集し、7つの方法を用いて、正常な妊娠かどうかを3つの視点を用いて解釈しており、その解釈に基づいて、異常として医療機関を連携する、より正常に経過するためのケアの選択、異常にならないためのケアの選択を行っていた。この結果を基に学習のプロセスを支援する目的を持つインストラクショナルデザインを用いて、現任教育プログラムを開発した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、研究者の理論知と実践知を融合させながら妊娠期のケアに関する現任教育プログラムの開発に導く研究であり、より実践での活用可能性が高い点である。また、これまでの知識・技術提供を中心とした教育方法ではなく、母性助産看護学教育、卒後教育の新たな教育方法として活用し、母性助産看護の課題解決に貢献できると考えられる。さらに、プログラムの活用により、助産師の能力の向上が期待され、対象妊婦の健康増進への貢献、さらには、母性助産看護の質を高めることにつながり、意義があると言える。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to clarify the clinical judgment that is the accumulation of specialized knowledge and skills possessed individually by midwives and to develop an in-service educational program on clinical judgment. In antenatal care, midwives collected information necessary for maternal and fetal health status and interpreting whether a pregnancy is normal. Based on the interpretation, they coordinated medical institutions as abnormalities, selected care for a more normal course, or selected care for not becoming abnormal. Based on these results, we developed a clinical judgment education program using instructional design.

研究分野：母性看護学

キーワード：臨床判断 妊婦健康診査 助産師

1. 研究開始当初の背景

日本では、近年、周産期に関わる専門職としての助産師の役割は重要であり、周産期に関わらずその後の対象と家族の健康状態が案じられる、対象へのケアの質を高めていく必要がある。よって、専門性の高い能力と技術が求められ、クリニカルラダーなど、様々な継続教育、助産外来システム、助産診断能力、技術力の向上を目的とした出向システムなど、助産実践能力向上に向けた取り組みが実施されているが、十分普及しているとは言い難い。一方、看護教育では、熟練助産師の能力を研究により可視化した助産技術や思考の継続教育への活用が広がっている。妊婦健康診査の方法論として、助産師の臨床判断に関する研究は少なく、助産師がどのように臨床判断を行っているかを明らかにし、教育に活用することは意義がある。また、助産学生の学習到達度に関する研究で、山内は「基本的助産業務に必須な能力」で、妊娠期のケア領域は到達度が低く、妊婦に接する機会が限定されることや学習を反復できないという要因をあげている。ハイリスク妊娠が増加している社会状況において、妊娠期のケアに関する学習到達度を高めることは助産師教育における喫緊の課題である。

以上のことから、妊娠期のケアに関する助産実践能力を効果的に獲得する方法として、本研究で臨床判断を明らかにし、妊娠期ケアにおける臨床判断に関する現行教育プログラムを構築することは意義があると考え、本研究を行うこととした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、妊娠期のケアに関する助産実践能力を効果的に獲得する方法として、本研究で臨床判断を明らかにし、妊娠期ケアにおける臨床判断に関する現行教育プログラムを構築することである。

3. 研究の方法

第1段階では妊娠期のケアにおける臨床判断について文献検討を行うと共に、助産所に勤務する助産師を対象に妊娠期ケアに焦点を当てた参加観察法と半構成的面接方法を用いてインタビュー調査を行い、妊娠期ケアにおける助産師の臨床判断を明らかにした。また、第2段階では、文献検討とインタビュー調査の結果を基に妊娠期ケアにおける臨床判断に関する教育プログラムの作成を行った。

1) 第1段階

(1) 文献検討

妊娠期のケアにおける臨床判断を明らかにし、教育プログラム作成の示唆を得るため、過去10年間の国内文献を抽出し、文献検討を行った。

(2) インタビュー調査

対象者の選定

助産所での助産師は、妊産婦との関係性を構築しながら妊娠期から助産師が一貫して関わり、正常分娩に向け、継続して妊娠期ケアを行う責務があり、自律的な助産ケアを行っていることから助産所に勤務する助産師を対象とした。

調査方法

参加観察法

研究者が妊婦健康診査(以下、妊婦健診)の場面に同席することを助産師から妊婦、及びその家族へ説明してもらい、同意が得られた場合に、妊婦健診開始時から終了まで、妊婦と

関わっているすべての場面で参加観察を行った。

半構成的面接

参加観察後、助産師が行った妊婦への関わりの場面を振り返り、その時の助産師の関わりを行う上で臨床判断を行っていたと考えられる場面について、半構成的面接を行った。

データ分析方法

参加観察した場面のフィールドノートをもとに、妊婦健診時の助産師の言動、それに対する妊婦の反応を経時的に整理した。半構成的面接で得られたデータは、共通の意味を持つものをカテゴリー化し、妊娠期における助産師の臨床判断と考えられるデータを抽出した。。面接技術、参加観察方法、データに関する研究者の理解と解釈の評価について、妥当性、信頼性の確保のため、母性看護研究者によるスーパーバイズを受けた。

2) 第2段階

(1) 妊娠期ケアにおける臨床判断に関する現行教育プログラム案の作成

第1段階で得られた妊娠期ケアにおける臨床判断の枠組みから、インストラクショナルデザインに基づいた妊娠期ケアにおける臨床判断に関する現行教育プログラム案を作成した。作成した教育プログラム案は、助産学研究者4名で妥当性や活用可能性を検討した。

4. 研究成果

1) 妊娠期ケアにおける助産師の臨床判断

文献検討およびインタビュー調査の結果から妊娠期ケアにおける助産師の臨床判断が明らかになった。

(1) 妊娠期ケアにおける助産師の臨床判断に関する文献検討結果

、妊娠期ケアにおける助産師の臨床判断は、助産師が対象妊婦を捉えるために必要と考えた情報をこれまで培った技術、五感を用いて【観察】し、専門的知識、経験を用いて【妊婦と胎児の健康状態を(の)解釈】し、【今後の経過を(の)予測】し、【より健康で正常な妊娠経過をたどるためのケアを(の)決定】することが明らかになった。

(2) 妊娠期ケアにおける助産師の臨床判断

インタビュー調査の概要

A 県下の分娩を取り扱う B 助産所に勤務し、妊娠期ケアに当たる助産師で研究の概要を説明し、研究協力に同意を得られた4名の助産師を対象とした。参加観察を行った妊婦健診場面は、妊婦健診6場面で、いずれも正常妊娠経過をたどっていると判断された妊婦を対象に妊婦健診が行われた場面であった。

インタビュー結果による妊娠期ケアにおける助産師の臨床判断

インタビューの結果、妊娠期ケアにおける助産師の臨床判断として3つのカテゴリ及び13のサブカテゴリが抽出された。(表1)

表1 妊娠期ケアにおける助産師の臨床判断

カテゴリ	サブカテゴリ
情報収集	データそのものを捉える 正常イメージとの違いを捉える 正常データと比較する これまでの経過(前後の経過)を元に捉える 時期による特徴と照らし合わせる 自分の手技を再確認する 胎児要因から捉える
母体と胎児の健康状態の解釈	異常の有無の確認 ガイドラインに準じた責任範囲内かの確認 今後の分娩予測

解釈に基づいたケアを選択	より正常に経過するためのケアの選択 異常にならないためのケアの選択 異常として医療機関と連携
--------------	--

(3) 妊娠期ケアにおける助産師の臨床判断の枠組み

文献検討およびインタビュー結果より、妊娠期ケアにおける助産師の臨床判断に関する枠組みを作成した(図1)。助産師は、対象妊婦を捉えるための【情報収集】を行い、その情報とその他の観察した情報をもとに、比較したり、経過をとらえたり、標準(基準)と照らし合わせるなどして、異常の有無の確認、ガイドラインに準じた責任範囲内かの確認、今後の分娩予測の視点を含めて正常な妊娠かどうかを捉える【母体と胎児の健康状態の解釈】をし、その解釈に基づいて、より正常に経過するためのケアの選択、異常にならないためのケアの選択、異常として医療機関と連携の【解釈に基づいたケアを選択】することが、妊娠期ケアにおける助産師の臨床判断であることが明らかになった。(図1)

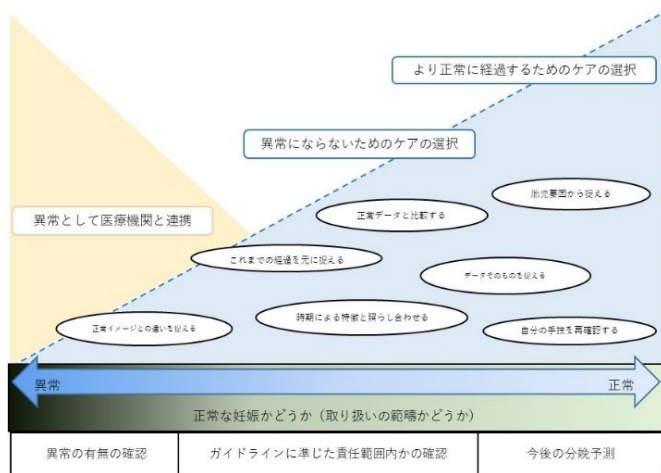


図1 妊娠期ケアにおける臨床判断

2) 妊娠期ケアにおける臨床判断に関する現行教育プログラムの作成

妊娠期のケアに関する臨床判断の力を効果的に教授する方法として、学習者を中心とした学習デザインを用いた教育プログラムとし、インストラクショナルデザインに基づいた教育プログラムを作成した。

(1) 受講対象

受講対象は、学習者は、クリニカルラダーレベル または にあり、助産師外来に従事予定がある助産師とした。クリニカルラダーでは、支援を受けながら、助産師が管理できる対象者および連携する産婦人科医師と相談のうえ、協働管理すべき対象者の妊婦健康診査及び保健指導ができ、産婦人科医師が管理すべき対象者の診療介助が1人でできる、レベル と、1人で助産師が管理できる対象者および連携する産婦人科医師と相談の上、協働管理すべき対象者の妊婦健康診査と保健指導、および産婦人科医師が管理すべき対象者の診療介助が1人でできる、レベル を対象とした。

(2) 研修目的と学習目標の設定

受講対象をクリニカルラダー およびレベル の段階にある助産師としたことから、妊娠期ケアの実践能力向上を目指し、学習に臨もうとする学習への姿勢とレディネスがあると考え、目的を検討した。その結果、研修目的は、「クリニカルラダーレベル または にある助産師が妊婦健康診査において臨床判断できる」とした。次に、研修目的を達成するための学習目標として、「妊婦健康診査に必要な項目を説明できる」「フィジカルアセスメン

トの流れに沿って妊婦の観察の流れを転用して妊婦健康診査を行うことができる」「臨床判断の視点をういて事例について判断の内容を説明できる」「シミュレーションで妊婦健康診査を行うことができる」「妊婦健康診査において臨床判断、それに基づいたケアを実施することができる」の5つを学習目標と設定した。(表2)

表2 研修の枠組み

学習課題	下位要素	前提要素	パフォーマンス目標	評価
妊婦健診に必要な項目を説明できる	妊婦の健康状態を判断するために必要な情報を挙げる事ができる 胎児の健康状態を判断するために必要な情報を挙げる事ができる 正常な身体心理社会的状態の経過を説明できる 必要な技術を用いて健康診査を行うことができる 7つの必要な指標を説明できる 3つの確認を行い、ケアの方向性を定めることができる	事前学習課題テストで80%以上の正解率になる 必要な技術を説明できる 問診、視診、触診、聴診など方法と手順を説明できる 7つの視点について説明できる 医療との連携 異常にならないためのケア より正常に経過するためのケア	妊婦の健康状態を臨床判断するために必要な情報を前提要素の側面から説明できる 胎児の健康状態を臨床判断するために必要な情報を前提要素の側面から説明できる 前提要素を用いて、正常な身体心理社会的状態の経過を説明できる 方法と手順をその要素である問診、視診、触診、聴診により説明できる	7つの視点について説明できる 3つの確認を行い、適切にケアの方向性を定めることができる
フィジカルアセスメントの流れに沿って妊婦の観察の流れを転用して妊婦健康診査を行うことができる	事例について妊婦健診の流れを説明できる 結果から正常、異常を判断することができる 指標を用いて判断することができる 必要な指標に結果を照らし合わせる事ができる 7つの視点を用いて結果を確認することができる 判断したことを説明することができる 3つの確認を行い、ケアの方向性を定めることができる	妊婦の健康状態を判断するために必要な情報を挙げる事ができる 胎児の健康状態を判断するために必要な情報を挙げる事ができる 正常な身体心理社会的状態の経過を説明できる 異常の有無 ガイドラインに準じた責任の範囲内か 今後の分娩予測		事前学習課題テストで80%以上の正解率になる 事例について7つの視点で結果を確認することができる 確認したことを結果を基に説明することができる 事例について結果を基に3つの確認を行い、適切にケアの方向性を定めることができる
臨床判断の視点をういて事例について判断の内容を説明できる	アセスメントをするという経験を思い起こすことができる		アセスメントするという考え方を転用し情報収集できる アセスメントするという考え方を転用し判断できる アセスメントするという考え方を転用しケアの方向性を定めることができる	
シミュレーションで妊婦健診を行うことができる	流れに沿って妊婦健診を行うことができる	情報収集、臨床判断、ケアの方向性の決定のプロセスを踏む	提示された事例を情報収集、臨床判断、ケアの方向性の決定のプロセスを踏んで妊婦健診を行うことができる	シミュレーションで臨床判断を行うことができる
妊婦健診において臨床判断、それに基づいたケアを実施することができる	助産師の臨床判断によって良い結果となった事例を説明できる 臨床判断能力を向上させることが有用であることを説明できる	臨床判断の必要性を説明できる 臨床判断の必要性を説明できる	臨床判断が妊婦健診に必要であると考えられる理由を事例を用いて述べる事ができる 実践における臨床判断の必要性を考えとして述べる事ができる	

(3) 内容

学習目標に沿って研修内容を段階的に進めていくことができるよう、研修を2回に分けて行うこととした。受講する対象が、妊娠期ケアの経験がある対象が予測されることから、プログラムの学習目標「妊婦健康診査に必要な項目を説明できる」に対して、助産師に必要な妊娠期に関する知識について事前テストを設けた。事前テストは、ローリスクの妊娠期の診断とケアに関する基本的知識を問う問題を作成することとした。次に、事前テストによる知識の確認の後、グループワークおよびシミュレーションによる学習方法を用いた集合教育を行うこととした。各学習目標を段階的に達成し進められるよう学習内容を検討した結果、学習目標の「フィジカルアセスメントの流れに沿って妊婦の観察の流れを転用して妊婦健康診査を行うことができる」「臨床判断の視点をういて事例について判断の内容を説明できる」の達成を目指し、1回目の研修は、臨床判断に関する知識と思考を実践するプログラム内容とし、2回目は、シミュレーションを取り入れた演習を行い、妊婦健康診査において臨床判断、それに基づいたケアの実施という学習目標が達成できると考えた。

臨床判断に関する知識を提供し、事例を用いて臨床判断を実施し、個人で考えた内容をグループワークで共有することで臨床判断への理解や事例のとらえ方を深めることができると考えた。さらに臨床判断したことをシミュレーションを通して実践できることを目指す、学習者中心で学ぶことが可能なプログラムを作成した。(表3)

(4) 妥当性の確保

プログラムは、妥当性を確保し、活用可能性を確認するために助産学研究者4名に内容について意見を得て、検討した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 西内舞里	4. 巻 69
2. 論文標題 助産所での妊婦健康診査助産所の情報収集	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 高知県立大学紀要 看護学部編	6. 最初と最後の頁 23 - 34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------